



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

今号の内容

- ▶ シリーズ北の志
 - ・北海道岩見沢農業高等学校
 - ・札幌国際情報高等学校
- ▶ 第63回全道大会報告
- ▶ 総会報告
- ▶ 支部だより
 - 石狩・後志



Heart to Heart 北の志

～ひたむきに頑張る君たちを応援したい～

まだまだあるぞ
甲子園

野球だけじゃない、いろいろな甲子園を探して
そこで活躍するどさんこ高校生たちを紹介します。



うまいもん甲子園 ～岩見沢農業高等学校～



花の甲子園 ～国際情報高等学校～

ご当地！絶品 うまいもん甲子園

北の大地の夢 岩農チリドック

～準グランプリに入賞して～

北海道岩見沢農業高等学校 教師
齋藤 克幸



△うまいもん甲子園に出場するぞ！▽

平成24年度にスタートしたうまいもん甲子園は、「食や農業を通じて高校生を応援し地域を盛り上げる」ことをねらいに、全国の農業高校の生徒が4人のグループを編成し、地元食材を使ったアイデアメニューを競う食のイベントです。

応募要領が発表された8月、私が指導担当している養豚班の生徒にこのことを話したところ、自分たちが飼育している豚肉を使用した商品を開発して出場したいということになりました。それは、日頃から「課題研究」の授業の一環で農畜産物に付加価値をつける生産や販売の方法と6次産業化について考えさせ興味・関心を持たせていたからだと思います。

養豚班の生徒は、岩農の特色を全面に打ち出し、実験実習で生産した食材で地域をアピールしようと考えました。そこで、自分たちが飼育している北海道で唯



一の生産で幻の豚と呼ばれる「中ヨークシャー種」の豚肉に、農業科学科で生産した、たまねぎと、味にアクセントを付けるミニトマトを使用することを考えました。そこで、3年生の畜産科学科2名に「自分たちで生産したものをしたい」という同じ目的を持った農業科学科2名が加わり、4名の『チーム岩農』が結成されました。

△アイデアメニューの研究▽

『チーム岩農』の生徒は、何度も話し合いを重ね、①「岩農で生産している農畜産物や加工品を使用してメニューを作ること」②「手

△「岩農チリドック」の完成▽

生徒は、味の決め手をどうするかについて苦労していました。

ジンギスカンのタレなどを試しましたが、せっかくの中ヨークシャー種の肉味とたまねぎがソースに隠れてしまいます。試行錯誤の結果、ミニトマトと「岩農産ケチャップ」にタマネギのみじん切りを加えたチリソースをかけることにしました。その後、試食会やアンケートを行うと同時に、岩見沢市内レストランや本校卒業生から助言と協力をいただきながら、マイナーチェンジを繰り返して、味を固定していききました。

その結果、岩農のタマネギとケチャップのうまみが凝縮したソースに、スライスした豚肉をからめ、トッピングとして、シャキシャキたまねぎと、ミニトマト「アイコ」、自家製ピクルスのさわやかなアクセントを付けた味が整いました。

コッペパンは、本校の購買で販売しているパン屋さんに依頼し、小麦粉は岩見沢産キタノカオリ、牛乳と卵は畜産科学科産を使用し、特別に作ってもらうことにしました。これらの努力により、素材の美味しさを十分に引き出した、早くて、簡単に、美味しく、北海道をアピールした「岩農チリドック」が完成しました。



△「農林水産省食料産業局長賞」を受賞▽

北海道ブロック代表に決まっただけで、食味の向上、



調理方法、料理コンテストのプレゼン、実売イベントでの動き、調理器具の選定、宣伝方法などの準備を行いました。

平成24年11月2日・3日、

全国77校のチームから選ばれた8ブロック9校が、東京銀座での料理コンテストと有楽町駅前での実売イベントを行いました。地域の代表というだけあり、日本全国のご当地メニューはどれも美味しそうなお品ばかりでした。実売イベントでは4時間で350食を売り上げ、スムーズな調理と接客でお客様を待たせることなく商品を提供できました。審査委員長の服部幸應先生からは、「新感覚なチリドックで素材の味が生かされ美味しい」とコメントをいただきました。料理コンテストの結果は、準グランプリに当たる「農林水産

省食料産業局長賞」を受賞しました。

△おわりに▽

今回の出場で生徒は、自らが生産したものを、自ら加工して、付加価値を付けて販売するという6次産業化を実際に体験することができました。その中で生徒は、企画力、実践力、宣伝力などを身に付けることができました。

出場に当たり、多大なご協力とご支援をいただき生徒の熱い思いに応えてくれた地域の皆様に感謝申し上げます。また、改めて地域の教育力の高さを痛感したところです。

平成25年2月19日、岩見沢市学校給食センターとの食農教育連携事業で、「岩農チリドック」が市内小中学校21校約7千人の給食メニューになりました。当日は「チーム岩農」の生徒が、豚が豚肉になるまでを小学6年生に説明し、一緒に給食をいただきました。

これからは、「岩農チリドック」が「岩見沢チリドック」となり、岩見沢のまちおこしに役立てたいと考えています。そして、このような実践を通じて地域との連携を図りつつ、生徒の力を伸ばす特色ある教育をより一層推進していきたいと思っています。

IKENOBO

花の甲子園

北海道札幌国際情報高等学校

華道部顧問 教諭

松橋庸子



「ばちん、カチーン。」

静寂の中から、心地よい花鉢の音が聞こえてきます。花の形をととのえながら、花と真つ直ぐに向き合う部員の姿があります。

札幌国際情報高校華道部の活動は、水曜日放課後、被服実習室にて、華道家元池坊講師の木村昭子先生をお招きして行なっています。部員は3年生4名、2年生5名、1年生7名の16名。その全員が女子という構成です。

この全員が、高校入学生翌日の「部活動紹介」や「新入生歓迎生け花体験」で初めて花に触れ、まったく経験のない初心者状態での入部します。年に20回ほどの



部活動の様子

限られた回数のお稽古ですが、生け花の「基礎」や花の扱い方などからしっかりと学びます。

日本の伝統の古典芸能や文化には、非日常的なものも多く高校生が慣れ親しむ機会になかなか恵まれにくいようですが、部活動を通じて機会を得るのもひとつのよい方法といえるのではないのでしょうか。

「お稽古はしているけれど、なかなか発表の場がなくて...」「せつかく腕前は上がったのに、見ていただく機会は年に一度の学校祭くらいで...」「運動部はいいなあ、遠征があつて。他校と練習試合などで交流できるのが本当に羨ましい!」といった声は、大会のない文化系の部の生徒からはよく聞かれます。そんな声を汲みとってか、学生達にすばらしい発表の場が設けられました。

伝統文化と現代のテクノロジーの見事なコラボともいえる『KENOBO 学校華道インターネット花展』(生け花作品の写真とコメントによるコンテスト)は、本校では6年ほど前から、年



北海道地区予選会

間の活動の一環として応募をはじめ、これまでノミネット賞4名・入賞1名と大変嬉しい結果を残してきました。遠征費用をかけずにコンテストに参加でき、さらに応募した作品のすべてが1年間ウェブ上で展示されています。

4年前からは、新たなコンテスト『KENOBO 花の甲子園』(高校生3名1チームが力を合わせ、生け花の腕前とプレゼンを競うコンテスト)に参加しています。第1回目は江別高校にて、第2回目は函館市(遠方のため、不参加)、第3回目は小樽市、そして第4回目は昨年は札幌市地下歩行空間にて行なわれました。第4回目大会の1次審査は、大勢の観客の前での生け込

みとなりました。制限時間「15分」で、オリジナルの「掛け」の作品を完成させます。続いて、2分30秒で作品のプレゼンテーションを行ないます。

本校は流通サービス科・国際文化科等の学科があり、特色ある授業の中で既にプレゼンテーションのスキルが培われている部分もあり、生徒同士の互いの努力により、優れたものになったと感じました。

予めエントリーした3名が「黒コンポート」「池坊自由花指定花器」、そしてオリジナルの手作りの「ミニチュア花器」をそれぞれ担当し、持ち込み花材として持参した「ななかまど」と、サプライズの「花材セット」(内容は事前に知らされない)が各チームに配布され、2次審査が始まりました。それぞれの学校からの作品と発表は、感性が生かされ、元氣よく個性にあふれたものばかり、さらに自らが実習で育てた花を持参したチームなど、感心させられました。

「華道の大御所」と呼ばれるような審査員の方々がご覧になる中で花を生けるなど、経験者には恐ろしいことでも、高校生は何食わぬ表情で純粋に頑張っている様子。感心せずにはいられません。

審査の結果、恐れ多くも本校が、京都の華道発祥の地『六角堂』で行われる全国大会へご招待を受けました。京都では華道のお家元「池坊会館」の講堂にて、大勢の観客が見守る中、入場行進。野球の甲子園と同じように前年度の優勝校(江別高校)から入場しました。

本校がクジで引き当てた審査場所は、六角堂を背にする最高の場所でした。次期お家元(池坊由紀様)を筆頭に学院の教授陣、ゲスト審査員がズラリと並ぶ前でも、どの学校の代表も、真剣に花と向き合う姿に感動を覚えました。大会は、池坊お家元の母校の比叡山高校が、校庭の美しい紅葉を見事に生け込み優勝。優勝旗を手に入れました。

コンテストですから、確かに勝負はかかっており、高く評価をいただければ嬉しく、誇らしくもあります。が、花の甲子園の出場においては「勝負だ!負けたくない!」といったよう



全国大会にて(六角堂をバックに)

な、生徒の闘争心を焚きつけるのでは意味がないと思います。それよりは、常に基本にかえり、生け花を学ぶことで日本が何百年もの長い間に渡って大切に受け継いできたよき伝統に親しみ、その「心」に触れさせたいと考えています。また、大きな舞台で生けるまでのプロセスでは、生徒達がより真剣に花と向き合い、思いどおりに花を扱えるように、そして花のことを知り、もっと好きになることを忘れないようにしています。

今年度の『KENOBO 花の甲子園2013』北海道予選会は9月14日(土)に決まりました。新たなメンバーと、新たな気持ちで臨みます。

北海道高等学校PTA連合会 第63回大会（釧路・根室大会）

【開会式】

大会主題を「価値観の多様化時代、子供たちの主体性を育む意欲的なPTA活動を」とし、「釧路湿原・根釧台地の風を感じながら広大な自然と豊かな海に囲まれた道東の地で、いにしえの開拓者達は、皆、壮大な夢を描いた。そこで今、大自然に培われた開拓者精神に思いをはせ、子供達が自然を敬い、心豊かでたくましく健やかに生きることが願い、「私たちは子供の応援団、主役は子供たち」を合い言葉に語り合いましよう」の大会メッセージ



のもと、釧路市観光国際交流センターを主会場に、二日間にわたる大会が幕を開けた。

開会式で主催者を代表して挨拶にたった中島会長は教育を取り巻く課題にふれ「先生、地域、保護者が三位一体となって時代を担う子どもたちに対して継続して支援をしていく必要がある」と呼びかけた。

また、今大会が「各支部や各学校単位でのPTA活動が、今以上に活性化し柔軟な対応できる組織を目指して、情報交換や意見交換を行うことで保護者力や教育力の向上となるポイントを見つけていただきたい」と期待を込めた。続いて、大会実行委員長、釧路商業

高等学校の鈴木敏夫会長は、「PTAは、子どもたちが日々学ぶ活動ステージを見つめ、励まし、援助しながら自己実現を図るプロセスを温かく支える応援団である」と述べた。

また、共催者挨拶として全国高等学校PTA連合会

の相川順子会長は、「保護者は、変化し続ける社会の中で、子どもたちが将来の夢をしっかりともち、様々な困難に耐える力を養い、未来に向かっていく道筋を支援していくことが求められている」と呼びかけた。この後、道高P連功績者表彰並びに感謝状の贈呈が行われた。功績者を代表して北海道釧路江南高等学校の羽田野善光前PTA会長、感謝状を北海道中標津高等学校の大村学前PTA会長に贈呈された。来賓として釧路教育局長が、道教委の立川宏教育長の祝辞を代読、道高校長協会の山本伸弘会長が祝辞を述べた。

【講演会】

講演では、講師に獣医療機関猛禽類医学研究所代表獣医師齊藤慶輔氏を迎え、「野生動物の命を守る」希少猛禽類の救護と環境治療の現場から」と題して、講演を行った。

環境省釧路湿原野生生物保護センターで、野生動物



の獣医師として十九年に渡る活動について紹介した。

絶滅の危機に瀕した猛禽類の保護活動の一環として傷病鳥の治療と野生復帰に努めていること。保全医学の立場から調査・研究の活動の様子を写真と動画で、分かりやすく説明。保護センターで、過去十年間で猛禽類の傷病鳥を保護した数は、オオワシ（百六十四羽）・オジロワシ（百六十一羽）・シマフクロウ（五十三羽）であること。

傷病・死亡については、車や列車などの衝突事故や鉛中毒、感電事故、発電用風車への衝突事故であること、すなわち、その原因は人間の活動であるとし、その予防のため、野生動物の生息環境の改善を「環境治療」と称して活動の主軸と

していることを紹介した。瀕死状態の動物は、野生に戻すことはできないが、彼らにも使命があり、輸血用ドナーとして動物の治療に参加してもらっている。それはすべて、命を繋ぐためであると強調した。

また、保護したシマフクロウの雛は、先天性の障害があり、野生では生きていけない。私は、この雛を、天からの授かりもの、約百五十羽しかないシマフクロウ界の親善大使としての使命があると思い、環境省の許可を得て、人に馴れ、人に飼われ、人に触れられることにストレスを感じないように育てた。猛禽類の正しい理解のために、シマフクロウに直接触れてもらい、素晴らしいさを伝えるための新しい試みを紹介。

「傷病野生動物は、自然界からのメッセンジャー」である。傷病野生動物が、変わりゆく自然環境を私たちに伝えてくれる。彼らが身をもつて伝えるメッセンジャーをきちんと受け止めて、より良く、人間と野生動物が共存することを考えなければならぬ。環境改善の事業と一緒に参加して欲しいことを聴衆に呼びかけ、

今後も、私のメッセージとして伝えていくつもりであると講話を締めくくった。

【分科会】

大会二日目は、釧路湖陵高校・釧路工業高校を会場に分科会が行われた。

「進路支援としてのPTA活動のあり方について」、「知りたい知らせたい学校の姿」PTAのあり方と活性化」、「地域と連携した学校行事を支援するPTA活動」など、三十五の分科会に分かれて、情報および意見の交換が行われた。

各単Pの活発な活動が紹介された。時々、笑いが出るなど、和やかな中にも会員相互が真剣に、本音で話し合い、時間を忘れての有意義な交流となった。



北海道高等学校PTA連合会

平成25年度

総会報告

日時 平成25年6月14日(金)
場所 釧路プリンスホテル

1 会長挨拶

中島 圭 会長

2 議長選出・議事録署名人指名

(1) 議長

赤田昌也代議員(釧路東PTA会長)

(2) 議事録署名人

平井良紀代議員(北見柏陽PTA会長)

丸山年民代議員(名寄校長)

(3) 記録者

城座研一(釧路北陽教諭)

半田 健(釧路北陽教諭)

3 議事

(1) 【第1号議案】

「平成24年度事業報告」

宮川事務局長が平成24年度事業を報告。意見・質問等はなく、承認。

(2) 【第2号議案】

「平成24年度収支決算報告」

算報告

小野次長が平成24年度収支決算を報告。

(3) 【第3号議案】

「平成24年度会計監査報告」

大貫司監事より「会則の規定に基づき監査したが、適正に執行されている」旨の報告があり、第2号、第3号議案について、意見・質問等はなく、承認。

(4) 【第4号議案】

「平成25年度役員改選(案)」

小林孝幸選考委員長(十勝支部長)より、理事会の承認を経た8名の役員候補の推薦があり、拍手により承認。

会長 中島 圭

副会長 山本 富造

(石狩・再・札幌新川) 村上 義人

(胆振・再・苫小牧西) 洞野 博文

(石狩・新・大森) 山本 伸弘

(石狩・再・札幌月寒)

監事 野村 光孝

(石狩・新・札幌南)

池本 章

(石狩・再・札幌東陵)

笹谷 純代

(後志・新・小樽潮陵)

【第5号議案】

「平成25年度事業計画(案)」

事務局長が平成25年度事業計画案を説明。意見・質問等はなく、承認。

(6) 【第6号議案】

「平成25年度収支予算(案)」

次長が平成25年度収支予算案を説明。質問、意見等はなく、承認。

(7) 【第7号議案】

「平成26年度総会・第64回全道大会(案)」

ア 開催支部

イ 後志支部

ウ 主管校 北海道小樽水産高等学校

ウ 日時 平成26年6月14日(土) 15日(日)

(9) 【第9号議案】

「北海道高等学校PTA連合会会則の一部改正について(案)」

事務局長が会則第1条、第17条、第20条の改正案を説明。拍手で承認。

(10) 【第10号議案】

「その他」

特になし

4 議長退任 赤田昌也議長より議長退任挨拶

5 退任役員紹介、新役員自己紹介

(1) 退任される長谷部直樹監事、大貫司監事の略歴等を紹介。感謝の拍手が送られた。

(2) 新役員を代表して中島圭会長が挨拶。その後、各自が役職名等を自己紹介。

「平成27年度総会・第65回全道大会(案)」
開催支部

北見支部

事務局長が第7、8号議案を説明。質問・意見等はなく、承認。

総会後、第一回理事会が7月28日(日)に行なわれました。

速報

第63回全国高等学校PTA連合会大会 山口大会にて、5年に一度のPTA活動振興功労者の表彰式が行われ、下村博文文科科学大臣より表彰状が授与されました。
北海道関係分の表彰者は次の通りです。

高間 専逸

(大森高等学校PTA元会長)

北海道高等学校PTA連合会 監事

北海道高等学校PTA連合会 副会長

北海道高等学校PTA連合会 会長

榊原 綾子

(札幌国際情報高等学校PTA元会長)

北海道高等学校PTA連合会 副会長

第61回全高P連大会(北海道大会) 実行委員長

北海道高等学校PTA連合会 会長

松本 衆司

(留萌高等学校PTA元会長)

北海道高等学校PTA連合会 副会長

第61回全高P連大会(北海道大会) 副実行委員長

孫竹 昌幸

(札幌北陵高等学校PTA元会長)

北海道高等学校PTA連合会 監事

北海道高等学校PTA連合会 副会長

第61回全高P連大会(北海道大会) 副実行委員長

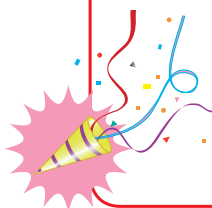
佐藤真弓美

(札幌工業高等学校父母と先生の会元会長)

北海道高等学校PTA連合会 監事

第61回全高P連大会(北海道大会) 監事

(敬称略)



平成25年度 北海道高等学校PTA連合会事業日程

平成25年7月28日現在

月	日	曜	内 容
6	14	金	道高P連「総会」・第63回道高P連大会（釧路・根室大会）第1日目
	15	土	第63回道高P連大会（釧路・根室大会）第2日目
	21	金	全国高P連第63回山口大会参加申込締切
	22	土	全国高P連・平成25年度第2回総務委員会・第2・3回理事会・総会
	23	日	全国高P連・平成25年度第1回常置委員会・健全育成委員会・協力者委員会
7	7	日	全国高P連第3回総務委員会・第4回理事会
	28	日	道高P連平成25年度第1回理事会等
8	2	金	全国高P連第1回賠償責任補償制度運営委員会
	2	金	高校生と語るつどい第1日目（北見支部・ネイバル常呂、日高支部・静内ローレルホテル）
	3	土	〃 第2日目（北見支部・ネイバル常呂、日高支部・静内ローレルホテル）
	21	水	第63回全国高P連大会山口大会運営会議・事務局長会議他
	22	木	第63回全国高P連大会・山口大会
9	8	日	高校生ICT Conference2013in北海道（13:00札幌ファクトリー）
	13	金	道高P連だより128号発行
	18	水	高校生と語るつどい第1日目（石狩支部・NTT北海道セミナーセンター）
	19	木	〃 第2日目（石狩支部・NTT北海道セミナーセンター）
	21	土	全国高P連第2回各種常置委員会・第4回総務委員会
	〃	〃	〃 第5回理事会
	22	日	〃 第1回全国会長・事務局長研修会
10	20	日	北海道シンポジウム（旭川支部・旭川グランドホテル）
	20	日	高校生ICT Conference2013in北海道（13:00札幌ファクトリー）
	21	月	全国高P連第2回賠償責任補償制度運営委員会
11	3	日	高校生ICT Conference2013サミット（東京）
	上		第2回支部事務局長会議
12	下		全国高P連中間監査
	中		道高P連だより129号発行
1	中		全国高P連第3回賠償責任補償制度運営委員会
	8	土	全国高P連第5回総務委員会、第6回理事会、第2回会長・事務局長研修会
2	9	日	〃 第3回各種常置委員会
	15	土	平成25年度第2回常任理事会・理事会・各委員会等
3	中		高P連だより130号発行
	上		正副会長会議
4	上		第64回道高P連大会（後志大会）案内発送（後志支部）
	下		平成25年度第3回支部事務局長会議
	下		平成25年度決算監査（監事）
	下		第64回道高P連大会（後志大会）参加申込締切
5	上		第64回全国高P連福井大会・各単P案内（旅行会社）
	上		全国高P連監査
	中		全国高P連平成26年度第1回総務委員会・第1回理事会
6	14	土	道高P連平成25年度第3回理事会等、平成26年度役員選考委員会
	14	土	第64回全国高P連福井大会申込締切（旅行会社）
	15	日	道高P連「総会」・第64回道高P連大会（後志大会）第1日目
備 考			※各支部総会（5/上旬～6/上旬）
			※災害補償制度説明会・運営委員会等（未定）

平成25年度 北海道高等学校PTA連合会役員・理事等名簿

平成25年7月28日現在

No.	役 職	所属等	氏 名	学校名	所属委員会	備 考
1	会 長	石 狩	中島 圭	石狩翔陽	—	全国：理事・調査広報委員 ★
2	副会長	石 狩	山本 富造	札幌新川	健全育成	全国：進路対策委員 ★
3	〃	胆 振	村上 義人	苫小牧西	総 務	全国：監事 ★
4	〃	石 狩	洞野 博文	大麻	研 修	全国：研修委員 ★
5	〃	校長協会	山本 伸弘	札幌月寒	総 務	北海道高等学校長協会会長 ★
6	監 事	石 狩	野村 光孝	札幌南	総 務	
7	〃	石 狩	池本 章	札幌東陵	健全育成	
8	〃	後 志	笹谷 純代	小樽潮陵	研 修	
9	理 事	全国出向	蜂谷 規彦	旭川南	健全育成	健全育成委員長（全国：健全育成委員）★
10	〃	石 狩	長谷川 聡	札幌東商	総 務	
11	〃	石 狩	下山 春美	札幌東豊	研 修	
12	〃	道 南	千秋 栄	函館水産	健全育成	
13	〃	後 志	中島 茂則	小樽工業	研 修	
14	〃	空 知	橋浦 正広	芦別	研 修	
15	〃	旭 川	佐藤 慎二	旭川農業	健全育成	
16	〃	留 萌	橋本るみ子	留萌	研 修	研修委員長 ★
17	〃	名 寄	渡邊 博史	名寄	総 務	
18	〃	北 見	寺中 賢武	網走南丘	総 務	
19	〃	十 勝	森 房明	帯広柏葉	健全育成	
20	〃	釧 路	鈴木 敏夫	釧路商業	総 務	
21	〃	根 室	石川 誠	別海	健全育成	
22	〃	胆 振	谷藤 豊	室蘭東翔	総 務	総務委員長 ★
23	〃	日 高	武田 修一	静内	研 修	
24	〃	校長協会	富田 敏明	札幌南	総 務	校長協会指名理事（校長協会副会長）
25	〃	〃	中村 至	文教大明清	健全育成	〃（校長協会・私学・理事）
26	〃	〃	馬場 保孝	石狩翔陽	研 修	〃（道高P連会長校）
27	〃	〃	田邊 彰宏	岩見沢東	健全育成	〃（校長協会空知支部長）
28	〃	〃	逢見 稔嗣	札幌東商	総 務	〃（道高P連石狩支部長校）
29	〃	〃	菅原 浩	札幌東豊	研 修	〃（道高P連次期石狩支部長校）
30	〃	〃	大鐘 秀峰	札幌真栄	健全育成	〃（校長協会事務局長）
31	〃	教頭・副校長会	倉内 慶一	札幌南	健全育成	教頭・副校長会会長 ★
32	〃	事務長会	伊藤 陽司	有朋	総 務	公立学校事務長会会長 ★
33	〃	養教研会	大村 道子	札幌東	研 修	養護教諭研究会副会長
34	〃	次期開催事務局	齊藤 昌志	小樽水産	研 修	小樽水産教頭（次期後志支部事務局長）

顧 問	榊原 綾子	前全国高P連理事・前北海道高等学校PTA連合会会長
-----	-------	---------------------------

★ …… 常任理事

総務委員会（11名）
 研修委員会（11名）
 健全育成委員会（11名）

※敬称略

●広報特別委員会	■組織等検討特別委員会	※事務局
委 員 長 山本 富造（副会長）	委 員 長 村上 義人（副会長）	宮川 恒美（事務局長）
副委員長 菅野 友香（札幌情P会長）	委 員 松本 衆司（元全国専務理事）	小野 修志（次 長）
委 員 前村 啓子（札幌工P会長）	〃 谷藤 豊（総務委員長）	小田島美香（局 員）
〃 西村 真理（札幌南P副会長）	〃 〃	
〃 田中 淳子（恵庭北P会長）	〃 宮川 恒美（事務局長）	

会長コラム



高P連だより128号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。6月15日に釧路市で開催された平成25年度北海道高等学校PTA連合会総会におきまして、今年度も引き続き会長職を仰せつかりました。微力ではありますが、引き続きご支援とご協力をお願い致します。

さて、同日開催されました釧路大会では約1000名近くの会員の皆様にご参加賜り、有意義な大会を開催することが出来ました。ご参加頂いた皆様に厚くお礼申し上げますとともに、大会の主管を頂きました釧路支部・根室支部の皆様を重ねてお礼申し上げます。高校生を取り巻く環境は、依然と

して厳しい状況にあります。今日まで継続して対応してきた問題に併せて、近年急速に発展してきた情報化の流れに対する対応も急務といえます。昨年度開催したスマートフォンの適正な利用についての講習会をはじめ、今年度は様々な情報をいかに識別し、有益な情報を活用するかを高校生に考えて高校生ICTカンファレンスを、北海道において初めて開催致します。様々な事業を通して、子供たちの健全な育成を支援し、大切な命をまもるという取り組みを積極的に進めて参りたいと考えます。

また、8月2日・3日に開催された「高校生と語るつどい」には、北見支部・日高支部にお伺いして参りました。それぞれの地域において自分のまちを愛し、故郷に恩返しをするという高校生の声を聞き、その志の高さに感動致しました。我々の活動の目的である「すべては子どもたちのために」という思いを改めて肝に命じ、今年度も全力で活動して参ります。1年間よろしくお願い致します。

北海道高等学校PTA連合会は、
高校生のための「災害補償制度」を
主催しています。

参加校 146校
生徒数 54,250人

多くの学校の参加を
期待しております。

私にジャストフィットする保険を選ぶなら
いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりの「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。



支部だより

狩部

石支

「魅力ある研修をとoshite」

北海道高等学校PTA連合会 石狩支部長 長谷川

聡

(北海道札幌東商業高等学校PTA会長)

石狩支部は現在、51校61単位PTAが加盟しています。

5月17日(金)支部理事会を開催し、31日(金)の支部総会では道高P連から中島会長、山本副会長のご臨席をいただき99名の参加で盛会に開催され、昨年度の事業報告・決算、新年度の新役員、事業計画、予算案などを承認していただきました。今年度の支部の事業といたしましては5月の支部理事会、支部総会に続



き、6月の全道高P連釧路・根室大会の参加、7月3日(水)に実施されました石狩支部「視察研修会(旭川方面)」は平日であるにもかかわらず約130名の参加のもと旭山動物園に行きました。当日、心配された天候は石狩地方では雨でしたが、旭川は最高気温24℃と曇りの天気で時々晴れ間ものぞき、絶好の研修となりました。この視察研修はここ数年旭川方面、小樽方面と交互に行っておりま

す。

今後の事業予定は、8月の全国高P連参加、10月10日(木)ホテルライフォート札幌で支部「教養講座」を開催します。講師に鈴木啓之牧師を招いての講演会を予定しており、鈴木先生はTVにも

ご出演されて、多くの講演活動をされております。また、珍しい経歴をお持ちで、楽しい中にも深い示唆のある講話が聞けることと思われまます。支部の皆様には多数の参加をお願いしたいところです。

さらに今年度は道高P連主催により「高校生と語るつどい」(9月18日(水)・19日(木)、N T T セミナールセンター)を開催いたします。内容としましては、株式会社植松電気専務取締役の植松努氏による講演を予定し、夢のある講話を聞ける事と思われまます。

他に分科会形式によるディスカッションで、高校生と大人がより相互理解が深められる研修にしようとして現在進めております。

今年1年間事務局校として道高P連のご支援を頂きながら子どもたちの成長の一助となるPTA活動を目指し、皆様のご協力を得ながら活動を行って参りたいと思います。宜しくお願いいたします。

志部
後支

次年度高P連全道大会成功を目指して

北海道高等学校PTA連合会 後志支部長 中島 茂則

(北海道小樽工業高等学校PTA会長)



後志支部は現在、十七校、二十の単Pが加盟しております。五月二十九日(水)に行われた平成二十五年年度後志支部総会は、北海道高等学校PTA連合会より中島圭会長のご臨席をいただき、盛会に開催されました。この支部総会では、今年度例年通りの議案の他に、私、支部長の方から一つ提案を行いました。その提案は、次年度の平成二十六年六月十四日(土)・十五日(日)、後志支部が当番支部となり、この小樽の地で、北海道高等学校PTA連合会第六十四回大会(後志大

会)が行われます。次年度支部事務局校となる小樽水産高校を主管校として、後志支部単P二十校が一致団結して大会の成功を期するのと同時に、小樽に來られた方々が満足して帰ることができるよう目標に取り組みたいという内容で、全会一致で承認されました。それを受け、今年度行われた六十三回大会釧路・根室大会には、後志支部単Pそれぞれが、視察を兼ね例年より多い参加者で釧路に赴きました。釧根のPTA会員の皆さんの良さを目の当たりにし、我々もこれから頑張らなくてはと心を一つにしたところ

です。大成功に終わった釧路・根室大会に負けない準備・運営をしていきたいと思っております。全道の高P連会員の皆様、ガラスの街・運河の街、全国でも有数の観光スポット小樽で行われる来年度全道大会には、ご期待いただき、多くの方の参加を心よりお待ちしております。話は変わります

が、今年度高P連後志支部の事業の案内をさせて頂きます。十月十八日(金)十七時三十分より、グラウンドパーク小樽にて健全育成事業「教育講演会」を行います。講師は装丁家・文章家・写真家でフムフムおじさんとして有名な坂川栄治氏を招き、演題はその名の通り、「フムフムおじさん教育を語る」ということで開催されます。是非、時間を取っていただき、講演を聴いていただければと思います。多くの方の参加を心よりお待ちしております。後志支部以外で興味のある方は事務局小樽工業高校まで問い合わせをお願いします。最後になりますが、後志は海と山に囲まれ、海の幸、山の幸の豊富などです。この自然の中で育った子ども達は、純朴で澄んだ目を持っています。この子ども達が真っ直ぐに育つことを願い、私たち高P連後志支部は活動を続けています。この願いは全道の各支部とも同じだと思えます。今後多くの願いを共有した道内の多くの方々と連携、協力しながら活動を行っていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。それでは来年少樽でお会いいたしましょう。